

競技も活躍、多様な働き方推進

ハウスコム

アスリート社員11人を登用



▶(左から)長谷川徳海氏、中村美佐執行役員、韓勝康氏

っかけだった。

双方にメリット

同社ではアスリート社員を採用することで、社員の士気向上につながることに期待している。採用責任者の中村美佐執行役員は「素直で吸収力もあり、会社が求める期待以上の成果を達成する姿は、同僚たちに良い刺激を与えている」と話す。

アスリート社員側でも、ハウスコムでの業務が競技生活に良い効果をもたらしているという。

ビーチバレー選手で広報担当として働く長谷川徳海氏は「驚いたのは、ハ

大手賃貸仲介会社のハウスコム(東京都港区)

は多様な働き方を推進し、その一環としてアスリート社員を登用する。2024年には、新たに6人が入社。8月16日時点で11人のアスリート社員が在籍。仕事、競技双方で活躍を見せる。

同社がアスリート社員を初めて採用したのは、21年。企業と現役トップアスリートをつなぐ公益財団法人オリンピック委員会(JOC)の就職支援制度「アスナビ」を通じて紹介されたことがき

れた「ビーチバレージャパン」第38回全日本ビーチバレーボール男子選手権大会」で優勝した。

生産性向上を意識

同社のアスリート社員は、スポーツと仕事の両立ができるよう働き方にも配慮されている。横浜

店の韓勝康氏は週5日、1日6時間、賃貸の仲介

営業に従事する。平日は、朝にサッカーの練習に励んでから、11時40分に出社し、18時40分まで勤務。

土・日曜日は、試合に出場したり、平日に休暇を振り替えて店舗に出社したりすることもあるとい

ウスコムではブランディングや経営方針の検討にあたって丁寧に事前準備がなされていたこと。アスリートとしてのブランディングや方針を見直すきっかけにもなり、準備の重要性についても認識を新たにしたい」と話す。長谷川氏はビーチバレーを始めて18年目。これまでも数々の大会で栄冠を手にしてきた。入社前より競技の練習時間は減ったが広報業務を通して学んだプロセス思考を生かし、より質の高い練習メニューにつなげている実感があるという。

長谷川氏は8月に行わ

入居の申し込み段階で契約の事前準備を入念に行うなど、限られた時間の中で常に生産性向上を意識しているという。「Jリーグ進出を目指しながら、ハウスコムの仕事にも全力で挑む」と韓氏は意気込みを話す。

「多様性のある社内風土をつくることで、より会社として強くなれると考えている」(中村執行役員)